

岡病防第 12号
平成23年 9月30日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

平成23年度病虫害発生予報第7号

平成23年 9月30日
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生量
水稲	トビイロウンカ	やや少
ダイズ	ハスモンヨトウ	並
果樹	カメムシ類	やや少
キュウリ	褐斑病	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	並 やや少 並 やや多 やや少 並 やや少 やや少 並 並 やや多
キク	ナミハダニ オオタバコガ	やや少 やや多

1. 普通作物

(水稲)

1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯において9月1～5半旬に誘殺を認めず、平年(34.2頭)より少なかった。

イ. 9月20～21日の南部地帯の巡回調査では発生を認めず、平年(発生圃場率18.9%)より少なかった。

ウ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

(ダイズ)

1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2,415頭で平年(2,282頭)並であった。

イ. 9月1～2日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は24.8%であり、平年(33.1%)よりやや低かった。

ウ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

2. 果樹(全般)

1) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは58頭で平年(128.8頭)より少なく、クサギカメムシは5頭で平年(2.7頭)よりやや多く、ツヤアオカメムシは6頭で平年(80.3頭)より少なかった。

3. 野菜

(キュウリ)

1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月26～27日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で、平年(89.2%、過去10年間のうち6年間で100%)並であった。

イ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する要因となる。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容
発生量 並

予報の根拠

ア. 9月26～27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容
発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20日の県予察圃場の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月26～27日の巡回調査によると、発生圃場率は28.6%で平年(17.8%)並であった。

ウ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容
発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月20日の県予察圃場の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月26～27日の巡回調査では発生を認めず、平年(8.5%)よりやや低かった。

ウ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3) 軟腐病

予報内容
発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20日の県予察圃場(ハクサイ)の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月26～27日の巡回調査によると、ハクサイでは発生圃場率が0%で平年(6.5%、過去10年間のうち6年間は0%)並、ダイコンでは発生圃場率が33.3%で平年(27.9%)並であった。

ウ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する要因となる。

4) 黒腐病

予報内容
発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月20日の県予察圃場(ハクサイ)の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月26～27日の巡回調査によると、キャベツでは発生圃場率が27.8%で平

年（0.9%）より高く、ハクサイでは平年（0%）同様発生を認めなかった。
ウ．9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

5) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア．赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年（2.1頭）より少なかった。

イ．9月26～27日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

ウ．9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、気温が高い場合には本虫の発生をやや助長する要因となる。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア．9月26～27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ．9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	やや少
	モザイク病	やや少

予報の根拠

ア．赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は166頭で平年（394.6頭）より少なかった。

イ．9月26～27日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年並であった。モザイク病は、ダイコンでは発生圃場率33.3%で平年（13.1%）よりやや高く、ハクサイでは発生を認めず平年（10.0%）より少なかった。

ウ．9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、気温が高い場合には本虫の発生をやや助長する要因となる。

8) ハスモンヨトウ

予報内容 並

予報の根拠

ア．赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2,415頭で平年（2,282頭）並であった。

イ．9月26～27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ．9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容 並

予報の根拠

ア．9月26～27日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ．9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

10) オオタバコガ

予報内容 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は10頭で、
平年（1.5頭）より多かった。

イ. 9月26～27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の
発生をやや助長する要因となる。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月26～27日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（14.9%）よ
り低かった。

イ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発
生をやや助長する要因となる。

2) オオタバコガ

予報内容

やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は10頭で、
平年（1.5頭）よりやや多かった。

イ. 9月26～27日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月23日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の
発生をやや助長する要因となる。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

なお、これまでご活用いただいていたテレホンサービスは、平成22年度をもって終了
いたしました。これまで、長きにわたり、多くのご利用を頂きありがとうございます
でした。病虫害発生予察情報は、引き続き、上記岡山県病虫害防除所ホームページをご利
用ください。